

産業建設常任委員会

平成22年10月28～29日 福岡県久山町・糸島市

行政視察報告

久山町（地区計画について）

久山町は面積37.43km²、人口8379人、福岡市の西に隣接しており農業を基幹産業として開発を厳しく抑制しながら発展を遂げてきた。昭和55年以降人口が減少傾向に転じ、併せて高齢化も進み始めたことから町の再興を図るため地区計画による土地利用開発に着手、町長の強い意思のもと大胆な政策転換を断行した。平成10年の都市計画法改正をうけ開発許可対象範囲の拡大を図るべく町内全8集落に対し4200万円を交付し、各地区の情勢に応じ住民が自ら発案する各々の地区計画策定を推進された。内訳として農業集落に各600万円、非農業集落に各300万円の補助を実施、これまで600人ほどの人口の増加実績を挙げ、将来的には、1万3500人のフリームを目標として教育施設も含めた社会資本



久山町視察

整備を整えつつ発展を成したいという明確な行政の意思を強調されていた。

糸島市「きらの湯」（第三セクターの運営について）

「きらの湯」は糸島市に所在し平成15年3月合併前の旧二丈町に第3セクターとしてオープン、敷地面積5473m²、床面積2334m²、資本金2420万円、利用料大人500円、子ども300円、2室の家族湯を備えた温泉複合施設となっている。オープン当初16万人の入湯者があったが現在では13万人を切り、市の補助額が年間約2000万円、今後10年の経営計画では施設改修費等を含め約2億3000万円の財政支出の見通しを立てている。65歳以上に優遇券を発行したり、民間テナントの入れ替えを行ったり、館内のリフォームはもちろん随時活性化策を敢行しているが利用率向上及び経営改善には依然効果がないとの状況である。いずれ存廃を含む決断を強いられると予測しているが、地域の福祉施設と捉え肅々と利用率向上に努めたいとの苦しい胸のうちを示しておられた。

健康福祉常任委員会

平成22年10月4～5日 福岡県行橋市・小郡市

行政視察報告

行橋市保健センター「ウイズゆくはじ」

従来は病氣予防の視点のみで健康を考えてきたが、本来の健康づくりは「病氣と元氣のバランス」がその人らしく調和している。病氣を持ちながらも生きがいや夢を持って暮らせる、仲間と一緒に楽しく過ごせることで、それを実現するために「市民みんな健康」に向かって行く橋をかけた」という想いをもった市民が集まり「ゆくはじ健康プラン」を平成15年から2年かけて作成し、「ゆくはじ健康つなぎ隊」を結成。それには、「ウイズゆくはじ」保健センター内にある健康対策課の存在が大きく、常に相談・指導し活動をバックアップしています。当日は意見交換をしながら、健康つなぎ隊のみなさんと「もしやこ体操」を行い交流。健康づくりには市民の自主的な活動を楽しく継続させる事とともに、行政の精神面のバックアップも大切だと学びました。



行橋市保健センター

小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」

小郡市健康づくり支援体制は総合保健福祉センター「あすてらす」を中心に、医師会・歯科医師会・九州大学健康課が区センター・地元スィミングスクールがNPO法人「あすてらすヘルスプロジェクト」を結成して様々なプログラムに取り組んでおり、地域での展開は区長会の力が大きいと感じました。

特定健診は、受診率が40.3%と大きな成果を上げています。合志市の受診率は33.2%です。料金も千円と安く、時間に余裕がある65歳～74歳の方には地元のかかりつけ医で個別健診を行い、忙しい40歳～64歳の方には集団健診を総合保健福祉センター「あすてらす」で一日で健診を終わらすなど、きめ細かい対策を行っています。また、特定健診の受診率を上げるために市からの通知のほかに、区の総会時に健診の案内を行うなど区長会の役目が大きいと感じました。今後は、若い人も医療機関で健診が受けられるようにしたいそうです。



小郡市福祉センター

文教常任委員会

健康福祉常任委員会

平成22年度合志市一般会計補正予算について

（福祉課関係）

問 生活保護費と、医療扶助費について詳しい内容は。

答 住宅扶助費については、昨年度の県の監査で合志市は上限が2万6200円だが、熊本市と隣接しているのに1.3倍を適用するようになり、H22年度4月から複数年世帯については上限を3万4100円にしました。生活保護費の約半分を医療補助費が占めています。（健康づくり推進課関係）

問 がん複合検診増加の内訳は。

答 がん複合検診の受診者が昨年

度より400名増えています。安いメール便から、大腸便潜血の容器を入れるためメール便が適用されなくなった差額と、女性特有のがん検診の予算計上漏れです。

指 女性特有のがん検診は当初から分かっていて、小額でも予算計上漏れは許されないことで、今後、十分注意するようにと指摘がありました。（子育て支援課関係）

問 合志市のHPなどで、つどいの広場の存続について噂がでているが、今後も続くのか。わかばはどうなのか。

答 つどいの広場事業は、親子



つどいの広場わかば

の交流の場の大変大事な事業で、当然今後も継続していく計画です。わかばについては、建物自体もかなり老朽化し、また、高額な賃借料も払っています。社協がふれあい館周辺に新設する保育園と併せ

で行うか、H24年度までに検討します。

陳情3号 市町村管理栄養士配置に関する陳情書

【反対討論】

管理栄養士は現在いませんが、嘱託で3名います。全ての部門におく目的も不明だし、財政上も問題があります。現在、管理栄養士がいなくて困っているという声がないので現状維持でいいと思います。

【賛成討論】

現行の健康施策において、管理栄養士は必要と思います。

合志市民センター条例の一部を改正する条例

問 市外の利用者料金を市内料金に3倍とした根拠について。

答 近隣市町を調査・比較し、4倍にするのは無理がある為、3倍とした。

合志市立小・中学校施設使用料徴収条例の一部を改正する条例

問 学校行事に伴う、保護者の施設料金徴収について。

答 学校行事については減免措置もあるので、学校長と相談の上、施設利用の申請をする様に。

合志市ひまわり公園条例の一部を改正する条例

問 年間の利用者数と使用料徴収額。

答 21年度は、グランドゴルフ利用者を中心に1万2811人、4万9800円徴収した。



総合運動公園

平成22年度合志市一般会計補正予算

（学校教育課関係）

問 私立幼稚園就園奨励費補助金の増額について。

答 国の制度改正による増額分と、申請園児が当初より118人増加した事による増額がある。

問 小・中学校の就学援助費の増額について。

答 要保護及び準要保護世帯の増加によるもの。及び生徒会費、PTA会費など新たに3費目が追加となり不足が生じた事による補正である。

（人権啓発教育課関係）

問 人権ふれあいセンター及び合生文化会館における、高額機器の更新計画は。

答 両施設とも建設後かなりの年数が経過している。機器等の更新は順次実施して来たので、多額の費用を要する計画はない。

問 総合センター電気料の減額について。

答 平成21年度の実績を勘案した上で予想を立て減額した。